

令和2年度末 鉄軌道駅における駅の段差解消への対応状況について

令和3年3月31日現在

事業者名	総駅数	1日当たりの平均利用者が3千人以上の駅数 A	段差が解消されている駅※1			移動等円滑化基準第4条に適合している設備により段差が解消されている駅※2		
			うち3千人以上の駅数 B	3千人以上の駅に対する割合(%) (B/A)*100		うち3千人以上の駅数 C	3千人以上の駅に対する割合(%) (C/A)*100	
JR東日本	667	410	475	410	100.0%	475	394	96.1%
JR東海	38	5	15	5	100.0%	12	5	100.0%
JR旅客会社2社 小計	705	415	490	415	100.0%	487	399	96.1%
東武鉄道	201	121	149	121	100.0%	144	120	99.2%
西武鉄道	91	79	85	79	100.0%	84	79	100.0%
京成電鉄	65	57	58	56	98.2%	58	56	98.2%
京王電鉄	69	67	69	67	100.0%	68	66	98.5%
小田急電鉄	70	70	70	70	100.0%	69	69	98.6%
東急電鉄	87	86	87	86	100.0%	86	85	98.8%
京浜急行電鉄	72	72	72	72	100.0%	72	72	100.0%
相模鉄道	26	25	26	25	100.0%	26	25	100.0%
大手民鉄8社 小計	681	577	616	576	99.8%	607	572	99.1%
東京都交通局	94	94	94	94	100.0%	87	87	92.6%
東京地下鉄	139	139	139	139	100.0%	137	137	98.6%
横浜市交通局	40	40	40	40	100.0%	40	40	100.0%
地下鉄3社局 小計	273	273	273	273	100.0%	264	264	96.7%
JR、大手民鉄、地下鉄 小計	1,659	1,265	1,379	1,264	99.9%	1,358	1,235	97.6%
中小民鉄、路面電車等 小計	532	199	1,276	199	100.0%	332	185	93.0%
鉄軌道全体 合計	2,191	1,464	2,655	1,463	99.9%	1,690	1,420	97.0%
(参考)令和元年度の利用者を基準に3千人以上の駅数を抽出した際の数値	2,191	1,531	2,655	1,495	97.6%	1,690	1,466	<u>95.8%</u>
(参考) 令和元年度末の数値	2,191	1,534	1,780	1,492	97.3%	1,662	1,455	94.9%

※1. 「段差が解消されている駅」とは、エレベーターなどの設備により、乗降場ごとに、高齢者、障害者等の円滑な通行に適する経路を1以上確保している駅をいう。

※2. 「基準第4条に適合している設備により段差が解消されている駅」とは、※1「段差が解消されている駅」のうち、基準に適合している設備(開閉とびらに窓があり、かご内に手すり等が設置されているエレベーターなど)により、乗降場ごとに、段差が解消された経路を1以上確保している駅をいう。

注) 1. 新幹線が乗り入れている在来線の駅であって、在来線の駅を管理する事業者が新幹線の駅も管理する場合、当該在来線の駅に新幹線の駅も含み、全体で1駅として計上している。新幹線の駅と在来線の駅を別々の事業者が管理する場合は、別駅として計上している。

注) 2. 2以上の事業者の路線が乗り入れる駅であって、事業者間の乗換改札口が設けられておらず、改札内で相互乗換えができる場合は、全ての事業者の駅を含めて全体で1駅として計上している。この場合、代表して1事業者に当該駅を計上している。